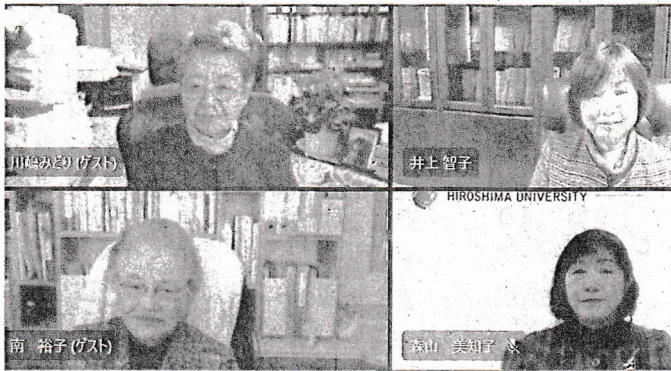


看護職 正当な評価のためには



オンライン取材に応じた看護未来塾のメンバー＝昨年12月

岸田政権は介護や保育、看護、障害福祉の分野で働く人の賃金を3%程度引き上げる方針を掲げています。看護職は新型コロナウイルスに対応する医療機関などの勤務者が対象ですが、待遇の低さや過酷な現場の見直しにつながるのでしょうか。看護職場の環境改善に取り組む団体「看護未来塾」のメンバー4人に今後の課題を聞きました。

3%賃上げ方針「看護未来塾」メンバーに聞く

「政権が掲げた賃上げをどう受け止めましたか。」

井上智子さん(国立看護大学校長)「看護や介護などのケアワーカーの処遇に光が当たったことには感謝ですが、何%引き上げるからOK、というわけではありません。」「女性ゆえに歴史的に賃金水準が低く留め置かれていることや、最近のコロナ対応を含めて仕事が正当に評価されているのかどうか、賃金に影響する診療報酬のあり方など、構造的な課題は残ったままです。」

看護未来塾

看護に関わる有志約120人でつくる団体。2016年設立。看護職員が働く環境やケアの質の改善に向けて、現場の声を踏まえた勉強会や提言・声明、要望活動などに取り組んでいる。

コロナ接種派遣、支援額は医師の1/3 ■ 頭数で報酬、技術にも目を

看護職の賃上げ方針 政権が掲げる賃上げ政策は2月に始まる。看護職では、新型コロナウイルスの治療などに対応する病院で働く人の収入をまず1%程度(月4千円)引き上げる。10月からは3%(月1万2千円)に拡大する方針。9月までの財源は2021年度補正予算に盛り込んでおり、10月以降は診療報酬の引き上げで対応する。

有識者らで構成する政府の「公的価格評価検討委員会」は、昨年末に中間とりまとめを公表した。政府は公的価格の抜本的見直しを通じて賃上げを図る考えを示しているが、その詳しい方向性や、恒久的な賃上げの財源ははっきりしない。

「職別平均賃金(2020年、月額)で看護師は39万4千円。全産業の35万2千円を上回ります。このデータをどうみるべきでしょうか。」

川嶋みどりさん(日本赤十字看護大学名誉教授)「看護師の仕事の性質から夜勤は当然とされている一方、夜勤をしない人もいます。しかしこの平均賃金には夜勤手当が月3万円近く入っています。こうした詳しい補正をせずに、全産業平均と比較するのは適切ではありません。」

「年齢別に見ると、看護師では20代は高いものの、30代後半から50代後半までは全産業を下回り、あまり伸びていきません。」

川嶋さん「若い看護師を多く雇うのは、夜勤要員確保のためでもあると思います。圧倒的に女性が多く、産休や育休などからの復帰後の賃金も上がりにくい。」

「国家公務員の看護職員に適用される『医療職俸給表(二)』は民間病院の看護師の賃金でも参考にされています。ただ、役職などのポストが少ないため、ベテランの多くが新人と同じ等級で評価され、伸びはゆるやかです。長い間改善しない男女の賃金格差の影響も色濃く、こうした構造のままで根本的に改善しません。」

「仕事に正当に評価されていない例としては、どんなものがありますか。」

南裕子さん(熟世話人代表)「神戸市看護大学学長(二)新型コロナワクチンの接種業務の手当はその二つです。看護師は打ち手となり、接種された人の体調に異変がないか観察する業務を担うことも多い。しかし、看護師を時間外や休日集団接種会場へ派遣する場合、医療機関が受け取る国の支援額は1人1時間あたり2760円。医師(7550円)の約3分の1です。」

井上さん「針を刺すときなど、接種を受ける人の体調の異変に気づけるかどうかは、看護師も医師同様に責任とリスクを負っています。」

南さん「チーム医療なので看護師だけが全てを担うわけではありませんが、看護職が軽微な地位だとみられているなど、残念です。」

「診療サービスの対価として医療機関に支払われる『診療報酬』の仕組みにも課題があります。」

川嶋さん「看護料は入院基本料に含まれ、患者の人数に対して看護師を何人配置しているかという『頭数』で報酬が増減し、配置される看護師がベテランでも新人でも、経営側が受け取る報酬水準は基本的に同じ。経営側はベテランを手厚く処遇するのが難しい。」

「また、診療報酬を引き上げれば患者が医療機関で支払う窓口負担も増えます。高齢化のなかで医療費の伸びは抑制しなければならず、人件費の一定額に税金を投入するなど、患者自身の負担増につながる改革が必要です。」

◆政府の「3%賃上げ」に関連したインタビューは、次回は14日付の予定です。障害福祉分野について、社会福祉法人「鴻沼福祉会」常務理事の斎藤なを子さんに聞きます。

ひととき

コロナ禍でこの2年、月の母の命日に墓参りできていない。母は岡山で女人と男5人を産み、育て私には姉2人に兄1人、1人、弟4人がいる。十数年前に認知症を患った一人暮らしの母を支えたため、きょうだい交代で介護した時期があった。私番のときは4日間、実父母と過ごした。その時に一冊の日記を手渡された。思春期の姉の教育への苦悩や子さんのゆえの悩みが綴られていた。その当時、私は小学生。母の心を和ませていたのだ。小遣いをためて母の

過去1万件のレシピ検索はこちら(スマホのみ)▼

